

第 15 期 中 間 決 算 公 告

2014年12月25日

大阪府中央区城見一丁目4番27号
株式会社 近畿大阪銀行
代表取締役社長 中前公志

中間連結貸借対照表 (2014年9月30日現在)

(単位：百万円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|--------------|-----------|-----------------------|-----------|
| (資 産 の 部) | | (負 債 の 部) | |
| 現 金 預 け 金 | 335,125 | 預 金 | 3,296,988 |
| コールローン及び買入手形 | 1,000 | 譲 渡 性 預 金 | 117,900 |
| 買 入 金 銭 債 権 | 24,982 | 債券貸借取引受入担保金 | 105,907 |
| 有 価 証 券 | 861,601 | 借 用 金 | 41,400 |
| 貸 出 金 | 2,491,082 | 外 国 為 替 | 108 |
| 外 国 為 替 | 4,002 | そ の 他 負 債 | 27,116 |
| そ の 他 資 産 | 8,837 | 賞 与 引 当 金 | 1,252 |
| 有 形 固 定 資 産 | 31,931 | 退 職 給 付 に 係 る 負 債 | 9,843 |
| 無 形 固 定 資 産 | 449 | そ の 他 の 引 当 金 | 3,636 |
| 支 払 承 諾 見 返 | 12,352 | 繰 延 税 金 負 債 | 287 |
| 貸 倒 引 当 金 | △ 27,990 | 支 払 承 諾 | 12,352 |
| | | 負 債 の 部 合 計 | 3,616,794 |
| | | (純 資 産 の 部) | |
| | | 資 本 金 | 38,971 |
| | | 資 本 剰 余 金 | 55,439 |
| | | 利 益 剰 余 金 | 28,307 |
| | | 株 主 資 本 合 計 | 122,718 |
| | | その他有価証券評価差額金 | 10,141 |
| | | 退職給付に係る調整累計額 | △ 6,280 |
| | | その他の包括利益累計額合計 | 3,861 |
| | | 純 資 産 の 部 合 計 | 126,579 |
| 資 産 の 部 合 計 | 3,743,374 | 負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計 | 3,743,374 |

中間連結損益計算書 〔 2014年4月1日から
2014年9月30日まで 〕

(単位：百万円)

| 科 目 | 金 | 額 |
|----------------|------------|--------|
| 経常収益 | | 35,016 |
| 資金運用収益 | 21,202 | |
| (うち貸出金利息) | (18,496) | |
| (うち有価証券利息配当金) | (2,494) | |
| 役務取引等収益 | 8,741 | |
| その他業務収益 | 1,262 | |
| その他経常収益 | 3,810 | |
| 経常費用 | | 25,951 |
| 資金調達費用 | 1,731 | |
| (うち預金利息) | (1,134) | |
| 役務取引等費用 | 2,035 | |
| その他業務費用 | 2 | |
| 営業経費 | 19,990 | |
| その他経常費用 | 2,190 | |
| 経常利益 | | 9,065 |
| 特別損失 | | 105 |
| 税金等調整前中間純利益 | | 8,960 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 45 | |
| 法人税等調整額 | 1,562 | |
| 法人税等合計 | | 1,607 |
| 少数株主損益調整前中間純利益 | | 7,353 |
| 少数株主利益 | | — |
| 中間純利益 | | 7,353 |

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結財務諸表の作成方針

(1) 連結の範囲に関する事項

- ① 連結される子会社及び子法人等 1社
会社名
近畿大阪信用保証株式会社

- ② 非連結の子会社及び子法人等
該当ありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

- ① 持分法適用の非連結の子会社及び子法人等
該当ありません。
- ② 持分法適用の関連法人等
該当ありません。
- ③ 持分法非適用の非連結の子会社及び子法人等
該当ありません。
- ④ 持分法非適用の関連法人等
該当ありません。

(3) 連結される子会社及び子法人等の中間決算日等に関する事項

連結される子会社及び子法人等の中間決算日は次のとおりであります。
9月末日 1社

会計処理基準に関する事項

(1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち株式については中間連結決算日前1ヵ月の市場価格の平均に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、それ以外については中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

(4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

当社の有形固定資産は、定率法(ただし、1998年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))については定額法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

| | |
|-----|--------|
| 建物 | 6年～50年 |
| その他 | 2年～20年 |

連結される子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

② 無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社及び連結される子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

(5) 貸倒引当金の計上基準

当社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、下記直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で与信額が一定額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結される子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は21,054百万円であります。

(6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への業績インセンティブ給与の支払いに備えるため、従業員に対する業績インセンティブ給与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

(7) その他の引当金の計上基準

その他の引当金は、将来発生が見込まれる費用又は損失について合理的に見積ることができる金額を計上しております。
主な内訳は次のとおりであります。

預金払戻損失引当金 1,918 百万円

負債計上を中止した預金について、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、計上しております。

信用保証協会負担金引当金 1,321 百万円

信用保証協会の責任共有制度導入等に伴い、将来、負担金として発生する可能性のある費用を見積もり、計上しております。

(8) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用 その発生時に一括して損益処理

数理計算上の差異 各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当中間連結会計期間末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(9) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当社の外貨建資産・負債は、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

(10) 消費税等の会計処理

当社及び連結される子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(11) 連結納税制度の適用

当社及び連結される子会社は、株式会社りそなホールディングスを連結納税親会社とする連結納税主体の連結納税子会社として、連結納税制度を適用しております。

会計方針の変更

(「退職給付に関する会計基準」の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 2012年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 2012年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当中間連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について「従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法」から「退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法」へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当中間連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当中間連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が57百万円減少し、利益剰余金が339百万円増加しております。なお、当中間連結会計期間の経常利益及び税金等調整前中間純利益に与える影響は軽微であります。

注記事項

(中間連結貸借対照表関係)

- 貸出金のうち、破綻先債権額は 1,290百万円、延滞債権額は 64,725百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(1965年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 貸出金のうち、3ヵ月以上延滞債権額は 140百万円であります。
なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は 35,217百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 101,372百万円であります。
なお、上記1. から4.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は 27,873 百万円であります。
- 担保に供している資産は次のとおりであります。

| | |
|-------------|------------|
| 担保に供している資産 | |
| 有価証券 | 154,680百万円 |
| 貸出金 | 118,864百万円 |
| 担保資産に対応する債務 | |
| 預金 | 10,839百万円 |
| 債券貸借取引受入担保金 | 105,907百万円 |
| 借入金 | 16,400百万円 |

上記のほか、為替決済、デリバティブ取引等の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、現金預け金 2,000百万円、有価証券19,658百万円及びその他資産 24百万円を差し入れております。

また、その他資産には、敷金保証金 1,105 百万円が含まれております。

- 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、373,661百万円あります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが 369,518百万円あります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当社及び連結される子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当社及び連結される子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
- 有形固定資産の減価償却累計額 21,494百万円
- 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金 25,000 百万円が含まれております。
- 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は 11,366 百万円あります。
- 銀行法施行規則第 17 条の 5 第 1 項第 3 号に規定する連結自己資本比率(国内基準)は 11.25%であります。

(中間連結損益計算書関係)

- その他経常収益には、貸倒引当金戻入益 1,940 百万円及び償却債権取立益 675 百万円を含んでおります。
- その他経常費用には、貸出金償却 1,080 百万円を含んでおります。
- 特別損失には、減損損失 70 百万円を含んでおります。
- 中間包括利益 10,770 百万円

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

2014年9月30日における中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません((注2)参照)。

(単位:百万円)

| | 中間連結貸借 対照表計上額 | 時 価 | 差 額 |
|------------------|------------------|-----------|--------|
| (1) 現金預け金 | 335,125 | 335,125 | — |
| (2) コールローン及び買入手形 | 1,000 | 1,000 | — |
| (3) 買入金銭債権 | 24,982 | 24,982 | — |
| (4) 有価証券 | | | |
| 満期保有目的の債券 | 158,753 | 165,172 | 6,419 |
| その他有価証券 | 700,691 | 700,691 | — |
| (5) 貸出金 | 2,491,082 | | |
| 貸倒引当金(※1) | △27,705 | | |
| | 2,463,376 | 2,476,998 | 13,621 |
| (6) 外国為替(※1) | 3,969 | 3,969 | — |
| 資産計 | 3,687,897 | 3,707,939 | 20,041 |
| (1) 預金 | 3,296,988 | 3,297,029 | 40 |
| (2) 譲渡性預金 | 117,900 | 117,900 | — |
| (3) 債券貸借取引受入担保金 | 105,907 | 105,907 | — |
| (4) 借入金 | 41,400 | 41,823 | 423 |
| (5) 外国為替 | 108 | 108 | — |
| 負債計 | 3,562,304 | 3,562,768 | 463 |
| デリバティブ取引(※2) | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | (911) | (911) | — |
| デリバティブ取引計 | (911) | (911) | — |

(※1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金、及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、外国為替に対する個別貸倒引当金は重要性が乏しいため、中間連結貸借対照表計上額から直接減額しております。

(※2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、約定期間が短期間(1年以内)であり時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。なお、譲渡性預け金は、将来のキャッシュ・フローを割引いて算定した現在価値を時価としております。

(2) コールローン及び買入手形

約定期間が短期間(1年以内)であり時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 買入金銭債権

貸付債権信託の受益権証書等については、外部業者(ブローカー)から提示された価格や市場価格に基づく価額を時価としております。

(4) 有価証券

株式は当中間連結決算日前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された価額、債券(私募債を除く)は市場価格や外部業者から提示された価格に基づく価額を時価としております。投資信託は、公表されている基準価格や外部業者から提示された価格に基づく価額を時価としております。私募債は、原則として内部格付に基づくそれぞれの区分、保全率ごとに、元利金の合計額を発行体の信用力を反映した利率で割引いて時価を算定しております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「(有価証券関係)」に記載しております。

(5) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸付先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付に基づく区分、残存期間ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、残存期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

(6) 外国為替

外国為替は、他の銀行に対する外貨預け金(外国他店預け)、輸出手形(買入外国為替)、輸入手形による手形貸付(取立外国為替)であります。これらは、満期のない預け金、または約定期間が短期間(1年以内)であり、それぞれ時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

負債

(1) 預金、及び(2)譲渡性預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、残存期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、原則として当該帳簿価額を時価としております。

(3) 債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金は、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4) 借入金

借入金は、元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、残存期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(5) 外国為替

外国為替は、外国送金に伴う他の銀行への未払金(売渡外国為替)、及びお客さまへの未払金(未払外国為替)であります。これらは約定期間が短期間(1年以内)の取引であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は為替先物予約であり、割引現在価値等により算定した価額を時価としております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(4)有価証券」には含まれておりません。

(単位:百万円)

| 区分 | 中間連結貸借対照表計上額 |
|-------------|--------------|
| ① 非上場株式(*1) | 1,991 |
| ② 組合出資金(*2) | 166 |
| 合計 | 2,157 |

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(*2) 組合出資金については、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されていることから、時価開示の対象とはしておりません。

(有価証券関係)

中間連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金、及び「買入金銭債権」中の信託受益権が含まれております。

1. 満期保有目的の債券(2014年9月30日現在)

| | 種類 | 中間連結貸借対照表計上額 (百万円) | 時価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|----------------------------|----|-----------------------|-------------|-------------|
| 時価が中間連結貸借対照表 計上額を超えるもの | 国債 | 147,387 | 153,688 | 6,301 |
| | 社債 | 9,806 | 9,928 | 122 |
| | 小計 | 157,193 | 163,617 | 6,423 |
| 時価が中間連結貸借対照表 計上額を超えないもの | 社債 | 1,560 | 1,555 | △4 |
| 合計 | | 158,753 | 165,172 | 6,419 |

2. その他有価証券(2014年9月30日現在)

| | 種類 | 中間連結貸借対照表計上額 (百万円) | 取得原価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|------------------------------|-----|-----------------------|---------------|-------------|
| 中間連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの | 株式 | 11,490 | 4,187 | 7,303 |
| | 債券 | 571,076 | 567,527 | 3,549 |
| | 国債 | 201,508 | 200,153 | 1,354 |
| | 地方債 | 34,696 | 34,555 | 140 |
| | 社債 | 334,871 | 332,817 | 2,054 |
| | その他 | 69,949 | 65,267 | 4,682 |
| | 小計 | 652,516 | 636,981 | 15,535 |
| 中間連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの | 株式 | 199 | 255 | △56 |
| | 債券 | 42,444 | 42,475 | △30 |
| | 地方債 | 2,011 | 2,015 | △4 |
| | 社債 | 40,433 | 40,460 | △26 |
| | その他 | 50,514 | 50,749 | △235 |
| | 小計 | 93,158 | 93,480 | △321 |
| 合計 | | 745,675 | 730,462 | 15,213 |

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

| | 中間連結貸借対照表計上額 (百万円) |
|-----|-----------------------|
| 株式 | 1,990 |
| その他 | 167 |
| 合計 | 2,157 |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(1 株当たり情報)

| | |
|---------------------|--------|
| 1株当たりの純資産額 | 49円42銭 |
| 1株当たりの中間純利益金額 | 5円45銭 |
| 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 | 4円2銭 |